

令和5年度 学校経営報告書（自己評価・関係者評価）

評価	基準	評価	基準	評価	基準	評価	基準
A	十分目標を達成することができた	B	おおむね目標を達成することができた	C	あまり目標を達成することができなかった	D	ほとんど目標を達成することができなかった

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

＜スクールポリシー具現化の柱＞

- ア 授業改善（主体的・対話的で深い学び）を通じた生徒の基礎学力定着
- イ 商業に関する専門性を高め、地域社会に応用・実践する力の涵養
- ウ 規範意識を高め、公共心を育む生徒指導
- エ 改革を意識した職務執行

	取組目標	成果目標	達成状況	自己評価	関係者評価	成果と課題	担当
ア	(ア)教科指導力の向上	一人一台端末を効果的に使用できた生徒 90%以上	生徒の80%が肯定的である。各授業では研究段階、試行錯誤を繰り返している状況	B	B	Wi-fi 設定やアカウント配付等の環境整備はできた。課題は、各授業での効果的使用法を確立させること	教務課
		2回以上の授業参観	80%以上ができた。年2回の公開授業期間では研究授業も行った。	A	A	アンケートをGoogleフォームで実施し、参観状況を把握した。課題は、授業改善にどう取り入れていくか、その後の取り組み法。	
		学習到達度の割合が6割以上達した生徒 60%以上(来年度成果目標変更)	各学年の学習到達度の割合は1年1学期 69.6% 2学期 68.0%、2年1学期 58.7% 2学期 49.7%、3年1学期 42.3%であったが、昨年度の状況よりは学習到達度の割合(平均)はアップしている。	A	A	各教科・商業科と連携し、家庭学習の定着を図ることで、学びの質を高める。	進路指導課
		毎テスト後、教科担当が生徒の弱点を把握し、それに対応する取り組みを行う教員が90%以上	90%がテストを通し授業改善に取り組んだと回答した。到達度テストの事後フォローアップ課題に伴う指導は100%であった。	A	A	教員の授業改善に対する意識は高い。結果データの分析をもとに個々の生徒へのフォローアップの実施方法を向上させる。課題は、生徒自身に学習への取り組み方改善の意識を植え付けることである。	

	取組目標	成果目標	達成状況	自己評価	関係者評価	成果と課題	担当
	(イ) 生徒支援を意識した授業の実践	授業が分かりやすいと思う生徒が 90%以上	1年生は 93%が、2年生は主体的に取り組めた生徒 95%、3年生は1学期 94%、2学期 93%が肯定的な意見であった。	A	A	教員全員が分かりやすい授業を心がけており、生徒同士の学び合いの時間を設け、生徒の理解を深めることにした。また、プロジェクト、図、板書等の適切な利用により分かりやすい明示を心掛けた。課題は、受け身の授業態度から、自ら考え学ぶ仕組みへの転換が教員側に必要である。	教務課各学年
		ユニバーサルデザインを意識した改善を 2 つ以上取り入れる	配布物にはUDフォントを使用し、板書等において字の大きさ、色チョークの使用に配慮。	A	A	各教員が意識して授業を実践できたことは成果。	1 年部
(ウ) 生徒の基礎学力の定着	スタディサプリを活用した学習を実施した生徒が 70%以上	生徒がスタディサプリを活用し学習を実施した割合が、1年 82%2年 96%3年 68%全校 81%であった。	B	A	家庭での平均学習時間が1年 32分、2年 38分、3年 41分と短いため、学習習慣の定着が先決課題である。	進路指導課	
	家庭学習を週 5 日以上行っている生徒 50%以上	家庭学習への主体的な取り組みをした生徒の割合が 44%であったが、昨年度から2ポイント上昇した。	B	B	週末課題や配信課題を積極的に実施する必要がある。学習意識の低い生徒への対応が課題。テスト後などにも継続して学習しようとする姿勢が弱く、やらされる勉強ではなく、自分から学ぼうとする姿勢を持たせる取り組みが必要。(課題を増やすだけでは解決しない)毎日、家庭学習の設定が必要である。	各学年部	
	SPI 模試(2 年部:基礎、3 年部実践)で得点率 70%以上が 8 割	2年部では得点率 70%以上が 73%であった。3年生は未実施である。	B	B	目標には達しなかったが、校内平均が全国平均より 12.5%高かった。次年度に向け、学習の仕方を工夫していく	2 年部 3 年部	
	到達度テストが昨年度より向上した生徒 60%(来年度は変更)	3教科学年平均正解率、昨年度秋 50.7% 今年度春 42.3%。	C	B	生徒の実態(学習歴)と到達度テスト内容が一致していないのはいか。高校2年の秋問題と高校3年の春では、問題の難易度が本	3 年部	

	取組目標	成果目標	達成状況	自己評価	関係者評価	成果と課題	担当
						校にあっていない。比べるのなら、2年秋にやった問題と同程度の問題を3年春で実施し、その差を見ることが必要ではないか。	
		生徒一人当たりの図書貸し出し冊数 1冊以上	1年生の図書室オリエンテーションも奏功し、年間平均1.1冊となった。	A	A	より貸出冊数を増やすため、まずは図書室利用者を増やす工夫をしたい。	図書課
イ	(ア) 商業に関する専門知識・技能の習得	各種検定合格率の前年比5%向上	今年度は、前年比5%以上の合格率を達成できた検定が少なかったが上昇した検定もあった。	B	B	検定試験に向けて、家庭学習の時間確保が課題である。	商業科
		各種検定合格に向けた補習の実施と年間1つ以上の取得をした生徒 90%以上	検定試験合格に向け、補習を実施。150人中148人の生徒が一つ以上の資格取得を果たした。	B	B	学級閉鎖等により、例年に比べ補習が不十分になってしまった。資格取得への意欲が低い生徒への対応が課題である。	1年部
	(イ) 地域の資源・課題を意識した教育活動の実践	実践的・体験的活動を含んだ授業内容で、10講座以上の確立	多くの講座で、実践的・体験的活動を含んだ授業に取り組んだ。しかし、発表において探究の内容を聞いたのは6団体に止まった。	B	B	しっかり探究活動に取り組んだ講座もあったが、10講座すべてで実施することができなかった。来年度は、更なる授業改善に取り組む。また、探究の発表の形(枠)や方法も考えていきたい。	商業科
		年間20回以上産官学連携による地域社会との交流機会を設ける。	商業科全体で、年間64回以上産官学や地域社会との連携や交流を行った。	A	A	成果目標以上に産官学連携による地域社会と連携や交流ができた。	商業科
ウ	(ア) 3基本的な生活習慣の確立	場に応じた挨拶、身だしなみ、言葉遣い、態度に気を配ることができる生徒90%以上	学校アンケートでは生徒96%、保護者88%の結果であった。あいさつは、できない生徒が多くなったと感じる。	B	B	生徒主体での校則改定が時代の主流であり、本校でも適切に運用されるようにしたい。マナーが形式化している生徒が増加。マナーの本質的な意味を様々な場面で理解させることが必要となっている。進路課の指導が成果を上げている。	生徒指導課 進路指導課 各学年部

取組目標	成果目標	達成状況	自己評価	関係者評価	成果と課題	担当
	不注意での遅刻ゼロ	8時30分に各HR教室に着席していない生徒が数名みられる。	B	B	当番制で登校指導を実施。基本的に時間を守ろうとする姿勢は見られる。声掛けや当番制で登校指導を実施。遅刻してくる該当生徒への注意が必要。	各学年部
(イ)特別活動や部活動を通した豊かな人間性の育成	部活動に対し主体的に取り組んでいる生徒80%	生徒93%、保護者91%が主体的に取り組んでいるとの回答であった。生徒の部活動への意欲はかなり高い。	A	A	部活動については、今後も本校が力を入れる分野としてアピールしていきたい。	生徒指導課
	学校行事、生徒会活動、諸活動に積極的に取り組んでいる生徒90%	アンケート結果から、生徒の主体的な参加が1年で94%、2年で96%、3年で98%であり、生徒の積極的な取り組みが見られた。	A	A	学校行事、生徒会活動の他にも、校外でのボランティア活動等に自主的・積極的に活動している生徒が多い。文化祭・修学旅行などの行事では、自分たちで考え行動する場面が見られた。生徒が一層主体的に取り組むことができることを期待したい。	各学年部
(ウ)地域社会の一員としての意識の高揚	地域防災や地域行事へ参加する生徒50%以上	自主防災訓練(12月)参加率は、学校として55.4%の参加率であった。1年部では、学校の地域行事への積極的な参加の呼びかけがあったと回答した生徒が92.4%であった。	A	A	9月の自主防災組織による防災訓練の参加率については調査しなかったため、来年度は実施する。生徒に声を掛け、参加を呼び掛ける。それとともに、地域防災への参加は、地域の呼びかけが必要だと感じる。学校では地域行事等に参加できるように配慮した。	総務課 各学年部
(エ)学校保健計画の確実な実施	朝の体温測定100%、朝食摂取率95%以上	5月8日にコロナ5類移行により検温を廃止したため、評価不能。実施期間中の達成度は9割程度。朝食摂取率は98%で高水準であった。	A	A	一日を活動的にいきいきと過ごすために、今年度並みの摂取率を維持していきたい。	保健課
	生活リズムを整えるなど自ら体調管理を意識して	学校アンケートでは、自ら体調	A	A	スマートフォンの使用やゲー	各学年部

	取組目標	成果目標	達成状況	自己評価	関係者評価	成果と課題	担当
		生活できたと答える生徒 80%以上	管理を意識して生活できる生徒 1年部 87%。3年生 85%であった。			ム等の影響に伴う家庭での生活リズムに課題のある生徒が若干名いる。ホームルーム等で教室の換気や体調管理の大切さを指導している成果が出た。	
エ	(ア) 事故、いじめのない学校づくり	ネットパトロール検出件数の前年度からの減少	令和4年度の9件から、令和5年度は1件と減少した。	A	A	SNSの健全な利用について指導が必要。	生徒指導課
		自転車安全指導カードの交付件数の減少(R4年度年23回))	令和5年度は12件であった。(12月末時点)	A	A	一旦停止無視や、スマホ使用ながら運転等は根気強く指導する必要がある。	
	(イ) リスクマネジメントによる危機管理体制の整備	生徒、教職員の安全を第一に考えた防災備品の整備と点検を年2回実施し、見直しをはかる。	生徒の非常食や非常用品を見直した。また防災テント等の点検を行った。	A	A	防災倉庫の整理が必要(防災の部屋が確保できればベスト)。災害になった場合、本校に待機する生徒が多いので、季節を考え暖房用具(毛布、灯油、発電機、シート等)の準備も必要。	総務課
		施設の破損を原因とする生徒、教職員の事故ゼロ	施設の破損を原因とする生徒、教職員の事故ゼロ	A	A	学期に一度、安全点検を実施する体制を整えた。引続き、結果をもとに不良個所を改修し、事故を防止する。大規模な改修が必要な個所は継続的に予算要求する。	事務部
オ	(ア) ワークライフバランスを意識した業務執行・改善	部活動ガイドラインに基づいて休息日を設定している部活動 100%	学校アンケートから生徒85%、保護者79%の回答であった。。	B	B	部活動ガイドラインの周知徹底を図る。	生徒指導課
		年2回部活動検討委員会を実施し、長期的視野に立った部活動再編計画の検討・策定を生徒とともに検討する。	2回実施し、統廃合の検討や今後の部活動の在り方について協議した。部活動検討委員会の実施はあったものの再編について生徒との検討については課題。	B	B	生徒数、教員数の減少に伴う部活動の統廃合や、部活動の在り方については今後も議論を続けていく必要がある。	教総課 各学年

取組目標	成果目標	達成状況	自己評価	関係者評価	成果と課題	担当
(イ)法令に基づいた迅速・適正な業務執行	監査・会計指導での指摘事項0	工事監査において注意事項あり、その他は指摘事項0	B	B	工事事務においては多岐にわたる知識の習得が必要となる。各々が知識習得のため、研修等に積極的に参加する。また情報共有し、事務室全体のレベルアップを図る。	事務部

<学校評議員からの意見・提言>

(評議員A)

- ・3年生の転学が多いが、理由が、何とか本校を卒業したいという気持ちがあったが、何らかの事情があり、この時期での転学となってしまったとのことであった。中学生には当初から、通信制を希望する生徒が増えている。前向きな転学なら問題ないが、不登校になったり、引きこもりになったり、その先が気になるところである。
- ・地域との連携をはじめ、島商はよい活動をしている。地元への就職が多いのは、その表れではないか。進学が増えているのは、向上心が強くなっているということだと思う。
- ・来年度から裁量枠に「学科への適性」が増えるということであるが、中学校でも地域社会での探究活動が根付いてきている。そういう生徒が入学して、更に力を伸ばすことができればよい。
- ・アンケート結果から島商は教育活動が充実しており、評価も高く、満足していることがわかる。
- ・端末活用の評価が低いのは、過渡期でありやむを得ない。

(評議員B)

- ・日商簿記1級合格は、大学生でも難しいものであり素晴らしい。地域と連携した活動も評価できる。
- ・生徒の家庭学習の取組み、読書習慣については、トップダウンではなく、生徒が主体的に取り組むように仕向けてはどうだろうか。生徒が自主的に提案、発信していくようになるとうよい。
- ・1人一台端末の有効活用について否定的なのは、高いレベルを要求しているということも考えられる。
- ・全く使いこなせていない2割なのか、そこが分かれば今後の手立てとなるのではないか。

(評議員C)

- ・変化の過程なので、学校も苦労が多いと思う。
- ・商業科の高校であるので、社会がどのように動いているかという社会構造を学ぶことが大事、社会構造を学んだうえで、自分が社会の中で何ができるかを気付くことが必要である。
- ・商業高校であるからには、就職することを前提に入学した生徒が多かったであろうが、進学が増えているのは、このまま就職することに不安を感じているのではないか。体験も大切だが、テーマを決めグループディスカッションを取り入れて、将来に対する不安を払拭する、仕事の意味を教えることで、商業に特化した学校には光が射してくる。